

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成17年9月22日(2005.9.22)

【公開番号】特開2000-30937(P2000-30937A)

【公開日】平成12年1月28日(2000.1.28)

【出願番号】特願平10-218517

【国際特許分類第7版】

H 01 F 7/20

A 61 B 5/055

G 01 R 33/387

G 01 R 33/389

G 01 R 33/20

【F I】

H 01 F 7/20 C

A 61 B 5/05 3 3 1

G 01 N 24/06 5 2 0 Y

G 01 N 24/06 5 3 0 Q

G 01 R 33/22

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月15日(2005.4.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

上記M R I装置用の磁界発生装置において、空隙は被検者の一部又は全部が挿入できるだけの広さが必要であり、かつ鮮明な断層イメージを得るために、通常、空隙内の撮像視野内には、0.02~2.0Tでかつ 1×10^{-4} 以下の精度を有する安定した強力な均一磁界を形成することが要求される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

【実施例】

実施例1

以下にこの発明の特徴を、図1Aに示す実施例に基づいて説明する。

磁界発生装置の継鉄は一対の板状継鉄3, 3端を板状の支持継鉄4で接続してあり、床1上に断熱用ゴムを介して脚部2が配置される構成である。磁界発生源としてR-F e B系磁石を用いた一対の永久磁石構成体5, 5を板状継鉄3, 3の対向面に着設し、各々の一方端に磁極片6, 6を固着して対向させ、磁極片6, 6間の空隙8内に、静磁界を発生させ、特に撮像空間9内に均一磁界を発生させる構成からなる。また、磁極片6, 6は環状突起7を有する構成で、図3の積層けい素鋼板のブロックにて形成されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

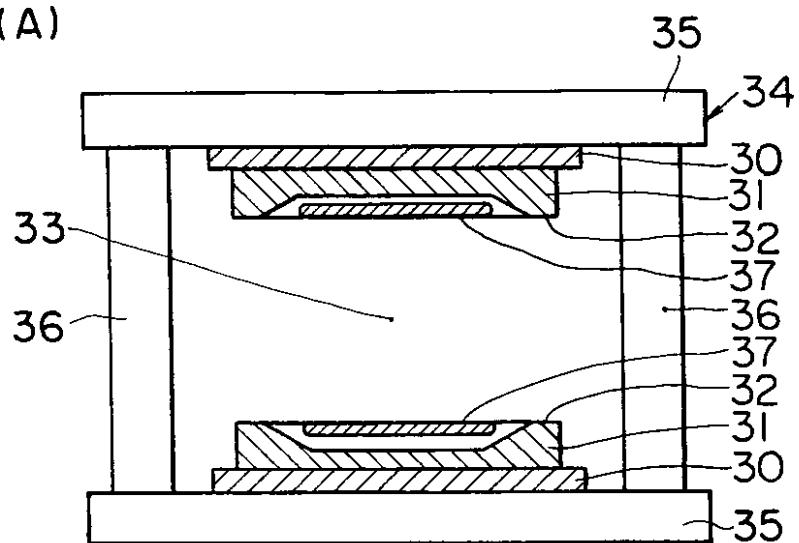
【補正対象項目名】図5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図5】

(A)



(B)

